

# 1 教育方針

## 本校の歴史

本校には、生徒・保護者・教職員の三者が参画し、話し合いによって学校運営をすすめていく「参加と共同」の学校づくりの伝統がある。その根幹をなす「三者会」は平成十年度（14代小松芳夫校長）に第1回が開催されてから20年以上が経過しているが、その精神は脈々と受け継がれている。

17代仙頭浩校長が赴任し、過去の三者会の生い立ちなど学校の歴史を振り返るなかで、本校の課題である学習や学校生活への意欲のなさ、リーダーの不在、生徒会活動や専門部活動、部活動等の低迷等の課題が再認識され、今一度学校に活気を取り戻し、生徒たちにとって楽しく夢を育める学校にしていきたいとの思いを新たに、「三者会」、「夏の陣」の復活、生徒会執行部の意識改革、専門委員会活動の活性化等に取り組むこととなった。

その流れをより強く、確かなものにするために平成28年度に赴任した18代大谷岩夫校長が「文武両道・報恩感謝の理念のもと、子ども達の可能性を導き出す努力を惜しまず、感動を追求することにより、知・徳・体の調和のとれた生徒の育成をめざす」を理念とし、教育目標を「幸せになろうよ」と、生徒とともにありたいという願いを込めて新たな目標を設定した。これらの取り組みを重ねることにより、生徒が落ち着き、学校に活気が蘇ってきた。

19代岩崎敦校長が「自律」を学校教育目標とし、「他者との違いを認め、高め合う集団をめざして」の研究テーマの下、「目的と手段」を見直し、未来を生きる子どもたちに何が必要なのかを見据え、最適な手段を見つけ出し組織的に取り組む文化を構築した。

以上のような奈半利中学校の歴史を20代校長小松英也が引き継ぐこととなった。

## 令和5年度

シンギュラリティが2年前倒しにされ、今年中にAIの知能が人間を超えると予想されている。GPT4などの対話型AIの進化のスピードをみてもそれを疑う余地は少ないように思われる。VUCA時代の到来と喧伝されて久しいが、今までの社会発展の延長線上にない指数関数的な社会構造の大変革期において、未来を見据えた日本の教育は世界の中で完全に後塵を拝している状況がある。国を愛する日本人の一人として、世界の中でも胸を張れるよう子どもたちを育てたい思いは強くなるばかりである。

これからの時代をたくましく生きるために生徒に求められる資質は、自分を大切にし他者の多様性も受け入れられること、そして自ら主体的に学ぶ自律した学習者であること、そして未来を予測し価値観をアップデートする力を持つことと考えるに到り、学校教育目標を「**自他を尊重する自律した学習者として、未来をたくましく生きる生徒の育成**」と定めた。

その学校教育目標を実現するために必要な組織の価値観、未来像、存在意義を次の学校経営理念に込めた。この3つの理念を浸透し、学校経営方針として学びの構造改革を目指すことで、学力課題、生徒指導上の問題、いじめ事象、不登校等の課題の根本的解決を目指していく。また、知、徳、体、横断的課題に分けて、3年間を見越し後述する取り組み方針を定めることとした。

## 【学校経営理念】

- 「魅力ある中学校づくり」
- 「心理的安全性の向上」
- 「自分も組織も尊重する」

## 【学校経営方針】

学習者主体の学習に舵を切っていくため、保護者の皆さま、地域の方々、行政の力を借りながら、**学びの構造改革**を進める。

### ○探究的な学びの研究

- ・総合的な学習を中心に、生徒が感動や充実感を味わえる探究的な学びを研究する

### ○個別最適な学びの推進

- ・個別最適なペースと取り組みを尊重する学習活動を創る

### ○協働的な学びの推進

- ・全ての生徒が自分と他者の意見をすり合わせられる安心できる学習環境を整備する

### ○1人1台端末活用の推進

- ・授業での活用例を研修し、日々の授業に生かす。
- ・ICTの活用による自己調整学習を進める。
- ・不登校傾向の生徒や別室登校生徒への支援を充実する。

## 【中期（3年間）学校経営取り組み方針】

### 【知】

1. 学びの文化づくり
2. 学習意欲向上のための学びの構造改革（授業改善）
3. 学習意欲向上と基礎学力定着の両立

### 【徳】

1. 生徒の当事者意識を育てる
2. 自尊感情と自己効力感の育成
3. 学校運営と支援の体制

### 【体】

1. 体力向上の取り組み
2. 健康教育の推進

### 【横断】

1. いじめ、不登校に対する総合的な対策
2. 学校における働き方改革の推進
3. 防災を中心とした安全教育・安全管理の充実